

---

平成 29 年

# 1 月の普及活動状況

---

## ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課(農業革新支援センター)の取組～



岐阜県農政部農業経営課

## 活力ある新産地づくり

### 西濃農林■ブロッコリー **ブロッコリー被覆試験の実施**

12月から1月の厳寒期には、気温の低下によりブロッコリーの花蕾生育が停滞し、出荷が不安定となる。この厳寒期の安定的な出荷を目的として、ブロッコリー畝に保温性の高い被覆資材をべたがけし、生育促進効果を狙った調査試験を行った。12月5日から1月6日までべたがけ被覆を行った結果、慣行区と比べ、花蕾肥大だけではなく、葉面積の拡大及び葉中硝酸イオン濃度が高くなるなどの株全体の生育促進が認められた。

今後、結果を取りまとめ、来年度以降の普及を図っていく。



【被覆試験の様子】

### 郡上農林■夏いちご **普及活動研究セミナーにて活動発表を行う**

1月25日ぎふ清流文化プラザにて、平成28年度普及活動研究セミナーが開催された。このセミナーは普及活動の成果を発表する事で県下各地に成果を波及し、岐阜県の農業・農村の一層の振興を図る事を目的として、年1回開催されている。

今回は普及指導員の他関係機関、農業者など約200人が参集した。セミナーでは4つの普及活動事例発表と情報提供及び講演が行われた。

郡上農林事務所農業普及課からは、夏いちごのブランド力向上～持続可能な成熟産地へ～と題して郡上市高鷲町のひるがの高原いちご組合への支援について発表した。この中で、栽培体系の改善や新たな販売チャンネルの創出により単収や単価が目標に近づいている事、産地の維持・発展に向けた支援を通じて次世代リーダーが育ちつつあることを報告した。

今後、農業普及課では夏場の高温対策やオリジナル品種の検討、次世代リーダーの更なる育成を通じて産地の発展を支援していく。



【事例発表の様子】

### 下呂農林■スイートコーン **県普及活動研究セミナーで活動実績を発表**

1月25日に県農業経営課の主催による平成28年度普及活動研究セミナーが、岐阜市で開催された。

約230人の出席者があり、普及活動事例発表では県下3カ所の農林事務所と農業経営課の農業革新支援専門員が報告し、下呂農林事務所も「下呂にズッコーン『南飛驒コーン』物語」と題して普及指導活動の成果を発表した。3年間の普及指導活動を振り返り、生産・販売・加工について、研究会組織の設立、生産者・栽培面積・販売額・加工品及びPR活動の増加、南飛驒コーンの愛称決定など、取組み内容と実績について説明した。また、会場ロビーではのぼり・チラシ等のPRグッズ及びレトルトコーン、地元高校とコラボレーションした下呂にズッコーンポタージュスープの展示も行った。



【堂々たる話しっぷりの  
矢島技師】

## 多様な担い手づくり

### 中濃農林■担い手リーダー・新規就農者 農業担い手交流会の開催

1月31日、ワールドカフェ形式による話し合いを通じて地域の担い手相互の交流を図る「中濃地域農業担い手交流会」を開催した。交流会は、第19回全国農業担い手サミット in ぎふを契機とした就農者支援の一環で、担い手リーダーである指導農業士、女性農業経営アドバイザー、青年農業士と新規就農者や就農を目指す研修生等が交流し意見交換した。ワールドカフェは大変な盛り上がりを見せ、決められた時間内では話が尽きず、次回開催を望む声が多く聞かれた。

この交流をもとに仲間づくりを進め、地域農業の担い手のネットワークづくりを行う。



【ワールドカフェの意見発表】

### 東濃農林■集落営農 集落営農法人設立について合意形成

1月25日に深沢地区集落営農システム検討委員会を開催し、集落営農組織化について検討した。

集落営農確立サポート事業の重点指導地区2年目となった今年度は、検討会を毎月1回開催して話し合いを重ねてきた。10月に白川町の農事組合法人を視察研修後は、自分たちの集落にあった組織はどのようなものかイメージすることができるようになり、それ以降の検討会では活発な意見交換がされ、早期の組織設立に前向きに検討されてきた。

今回の検討委員会では、平成29年10月を目標に集落ぐるみ型の農事組合法人を設立することで意思統一された。2月下旬に開催予定の集落説明会にて地域住民へ提案をし、意見集約を行う予定としており、農業普及課では今後も関係機関と協力して支援をしていく。



【検討委員会の様子】

### 恵那農林■夏秋トマト新規就農者 ライフプランを作成し経営展開を考える

農業普及課では、1月10日に、管内の夏秋トマト新規就農者や就農予定者を対象に、ライフプランの作成を支援した。

出席者8名に対して、農業普及課からライフプラン作成の目的や分析ソフトへの入力方法を説明し、各自の作成を支援した。

各自が作成したプランを確認すると、教育資金、住宅資金が必要となることで家計がマイナスとなる事例が多く見受けられたため、家計収支がマイナスとならない規模拡大の時期や収量についてシュミレーションし、農業経営の改善時期とその内容について助言した。

出席者からは、「今後の人生について考える良い機会となった」、「10年後、20年後の農業経営について考える機会がなく、今回数字で確認することにより現実味があった」等の感想が伺え、今後の生活や農業経営を長期的に考えるきっかけづくりの機会となった。

農業普及課では、新規就農者に対して、今後も短期的な技術支援だけでなく安定した営農継続を目的とした長期的な支援を継続する。



【ライフプランの作成】

## 売れるブランドづくり

### 岐阜農林■祝だいこん 反省会を開催

1月20日、JAぎふ則武支店において、祝だいこんの反省会が開催され、生産者など約50名が参加した。

今年は、は種後の10月に雨が多かったこと、水はけが悪いほ場での滞水が目立ったことなどから、長さ、太さのバラツキが大きい年となり、出荷歩留まりも74.4%に留まった。

昨年12月の目揃会の時には、規格表に合わないものは出荷しないよう徹底が行われたが、実際は規格外品の混入や選果選別の個人格差などクレームとなる事案が散見された。また、出荷期間中、気温が高く推移したことなどから、出荷初日から黄葉、赤葉の混入が目立つなど課題が残った。

農業普及課からは、今年の生産・出荷上の課題とその対応策や大阪近郊産地の出荷動向などの情報提供を行った。農業普及課では、今後も祝だいこんの高品質安定生産に向け、支援を継続していく予定である。



【反省会の様子】

### 揖斐農林■茶 飛騨美濃特産名人に茶生産者の太田氏が認定

12月27日、「飛騨美濃特産名人」の認定証授与式が県庁で行われ、揖斐川町の(農)桂茶生産組合の太田恒雄氏が認定された。

乗用摘採機の活用など、機械化による省力化を積極的に推進し、地域に類を見ない大規模経営を実現した。また、生産された茶は第68回関西茶品評会において、一等一席である「農林水産大臣賞」を受賞するなど、品質面でも優れ、ブランド維持・向上にも大きく寄与していること等が高く評価された。

今後も茶産地の発展に向けてご活躍いただけるよう、農業普及課も支援していきたい。



【認定証授与式の様子】

### 可茂農林■花 可茂地域花き生産者協議会研修会

可茂地域花き生産者協議会では、1月17日に可茂総合庁舎会議室において研修会を開催した。「花が売れない？」と題して、これまでの花き業界(鉢物)の状況及び売れる題材さがし・マーケティングのヒントなどを研修した。

また、県社会福祉協議会より、障がい者農業参入チャレンジ事業について情報提供があり、職員が随行されることや仕事内容などを勘案し適した方々をマッチングしてもらえることなどが説明された。

農業普及課では、引き続き協議会活動を支援していく。



【研修会の状況】

### 飛騨農林■ほうれんそう 飛騨ほうれんそう部会全体研修会

1月26日、JAひだ本店農業管理センターにおいて、「飛騨ほうれんそう部会全体研修会」が開催された。

近年、社会的問題となっている労働力不足については、ほうれんそう経営でも調製・袋詰め作業に労力がかかるため、大きな問題となっていることから、今回の研修会では(株)マイナビによる講演で、労働条件・環境の整備による、労働者の意欲向上を中心とした研修内容となった。

生産者にとっては、今まで以上に雇用環境を整備する必要があることなど、今後労働力を安定的に確保するために、多くを学ばなければならない状況であることが再認識された。

農業普及課では、今回の研修内容を活用して、今後もほうれんそう経営における労働力確保に向けた支援を継続する。



【全体研修会の様子】

### 農業経営課 ■ 飛騨牛 平成28年度普及活動研究セミナーにて発表

1月25日（水）岐阜市のぎふ清流文化プラザにおいて岐阜県普及活動研究セミナーが開催され、県内の農業関係者等約230名が参加した。

普及活動事例発表では郡上農林事務所から夏いちご、恵那農林事務所から夏秋なす、下呂農林事務所からスイートコーンに関する発表があった後、高山駐在革新支援専門員が「飛騨牛日本一をめざして」と題して飛騨牛飼育農家に対する3年間の普及活動成果を報告した。日本飼養標準に基づく飼料給与指導を行ったところ、繁殖農家ではめす牛の分娩間隔が短縮し子牛の発育が改善したことにより年間8千万円以上の経済効果があり、肥育農家では死亡事故の減少や肉量の増加が見込まれること等を発表した。

続いて、農林水産省女性活躍推進室 久保室長から「農業女子プロジェクト」に関する情報提供があったのち、講師（株）博報堂 ビジネスプロデューサー 勝又氏から「農業だから生み出せる新しい価値」と題して講演会が行われた。



【飛騨牛に関する事例発表】



【勝又氏による講演】